# 鉄・非鉄・化学・素材

## スーパーバッグ　中国で紙袋事業に参入
### 高級デパート向け照準

スーパーバッグは中国で紙袋事業に参入する。国内製造設備の一部を上海市の工場に移管して製造するもので、既に移設を終え、試作品を生産している。年内に販売を本格化し、事業を育成する。生活水準の向上に伴い中国でも高級デパートなどが増え、高品質の紙袋需要が増加している。一方で、国内市場は成熟しており、大幅な成長は見込めないため、中国での現地生産・販売に乗り出し、事業拡大を図る。

スーパーバッグは所沢工場（埼玉県所沢市）の工場棟1棟を建て直し、一部設備を約2億円を投じて新規導入した。これに伴い余剰になる既存設備を利用して、中国で紙袋事業を展開することを決めた。少ない投資で製造設備を確保できる。売上高など詳細な事業計画については、需要動向を見ながら今後詰めるという。

スーパーバッグの上海工場

上海工場ではこれまで、ポリエチレン製のレジ袋を生産していた。同工場に、手提げ紙袋用に2台、角底紙袋用に2台の計4台の生産設備を日本から移管した。1台の生産能力は、手提げ袋で1分当たり150－200枚、角底袋で同200－300枚程度。設備のメンテナンスや輸送費、上海工場がある中国子会社への売却などで3000万－4000万円の費用で済んだ。

現在は、中国の従業員が来日して研修を受けるなど、現地従業員に技術指導をしている。日系企業だけでなく、将来は顧客開拓をし現地企業向けにも販売する。これまで中国では、子会社を通じて外注先に紙袋生産を委託し、日本に輸入していた。

## 内外装のデザイン・施工
### ブランディング一貫提供
住友スリーエム

住友スリーエム（東京都世田谷区、ジェシー・ジー・シン社長、03・3709・8111）は、ブランド戦略の構築から、それに伴うデザインや施設の内外装の施工、効果測定などを一貫して請け負うブランディングサービスを6月から始める。サービス内容ごとに別々の企業に発注する従来の方法に比べ、依頼者の時間とコストを低減でき、訴求イメージも統一できる。現在、月10－20件に対応できる体制とした。

約10年前からフィルムを用いた施設の内外装の印刷・加工・施工までのトータルサービスを事業化していた。この中で、顧客からはさらにブランディングを含めた一貫サービスのニーズがあり、これに対応することにした。従来はコンサルティング会社やデザイン事務所など別々の企業に発注する必要があった。これを一社で総合的に請け負うメリットを訴求する。

▲デザインや施設の内外装の施工など一貫して請け負うブランディングサービス

第1弾として6月1日から開業医を対象に、第2弾では周年を迎える事業者を対象にしたサービスを今秋開始する。市場調査や戦略の策定、ウェブや内外装を含めたデザイン、施工、従業員トレーニング、効果測定を行う。

医療分野では同社製品の販売実績があり、強みや情報収集力を生かせると判断した。また、診療所の増加や患者の微減傾向を背景に、開業医には認知度向上やイメージアップのためブランド化のニーズがあるという。

将来は看板用フィルムなどを手がけるコマーシャルグラフィックス事業部の柱に育成する。3Mグループの中で、看板用フィルムなどを扱うグラフィックサービスは世界でも日本法人が先行した取り組みを展開しているという。ここでモデルケースとして事業を確立して、海外の3Mグループ各社での展開を検討する。

## 北越紀州紙、中国進出
### 130億円投じ年30万トン体制

北越紀州製紙は18日、中国に初の海外生産拠点を設け、白板紙を生産すると発表した。最終的には年間60万トンの生産を計画し、第一期計画として年間30万トンの製造設備を導入する。第一期計画の投資額は1億5000万ドル（約130億円）で、操業開始は2013年11月を予定する。16年には年間160億円の売り上げを目指す。

同社の輸出販売先である香港のホップチョンペーパーと三菱商事と合弁契約を結び、香港に持ち株会社「星輝投資控股有限公司」を設立。資本金は5000万ドルで、北越紀州製紙の出資比率は60％。この合弁会社を通じて中国の広東省に製造販売会社「江門星輝造紙」を6月に設立する。従業員は約300人を予定する。

白板紙はティッシュ箱や菓子箱などに用いる。中国では年間900万トンの白板紙需要があり、広東省だけでも年間3－5％の市場拡大が見込まれている。北越紀州製紙は、今後も安定成長が見込まれる中国で白板紙の生産販売をすることで、事業拡大を目指す。

## さあ、出番　帝人デュポンフィルム社長
### 丸山祐治（まるやま ゆうじ）氏

長年フィルム事業の営業に携わり、これまでも前社長を補佐し手腕を発揮してきた。社長就任を、「今まで取り組んできた構造改革は一段落し、今後は成長戦略に入る。その担い手として、良い時期にバトンを託された」と前向きに受け止める。

### 積極的に設備・能力増強

帝人と米デュポンの合弁会社でポリエステルフィルムが主力。タッチパネルの普及をビジネスチャンスととらえ、この取り込みのためにも「設備投資、生産能力増強を検討する」。また、新規用途など将来を見据えた市場開拓に備え、技術開発力の強化にも積極的だ。

ただ、東日本大震災の影響で利益目標など描いていたビジョンの修正を迫られた。新しい目標は「今回の環境変化を踏まえ、もう一度考え直し、夏までにまとめあげる」という。

趣味はオカリナと植木。「将来は、イングリッシュガーデンを造りたい」という。（湯原美登里）

74年（昭49）東大経卒、同年帝人入社。04年帝人デュポンフィルムフィルム販売第1部長、08年帝人グループ執行役員CMO補佐兼帝人デュポンフィルム営業部門長、10年帝人グループ執行役員E＆Eビジネス企画室長兼帝人フィルム取締役兼帝人デュポンフィルム取締役営業部門長。長野県出身、59歳。4月1日就任。（東京都千代田区霞が関3の2の1）

## 車向け塩ビコンパウンド
### 三菱化学、タイで増産

三菱化学は18日、タイ周辺での自動車向け機能性樹脂の需要増加に対応し、塩化ビニール樹脂コンパウンド（混練）の生産設備を増設すると発表した。現地子会社サンプレーンタイランドのアマタナコン工場（チョンブリ県）の生産能力を、2012年4月に4000トン増の年1万9000トンに引き上げる。投資額は約5億円。タイへは日系自動車メーカーをはじめ、部品メーカーなど幅広い自動車関連企業が進出し、生産拡大が続いている。これに伴い、自動車の内外装部品や電線被覆用に使う塩ビコンパウンドの需要も増加しているため、増設を決めた。

同社では同素材を含めた機能性樹脂を成長事業として位置づけ、グローバル展開を進める。

## 三井化学　投融資87％増860億円
### シンガポールで生産強化

三井化学は2011年度に前期比87％増の860億円の投融資を行う。シンガポールで14年の稼働を予定する高機能ポリエチレンの製造設備（年産30万トン規模）の新設のほか、太陽電池封止剤、コンパウンドなど世界で高いシェアを持つ競争優位の事業を海外で拡大させる。

2011年3月期の営業利益が405億円と、3期ぶりの黒字転換を果たしたことで、「大型のM＆A（企業の買収・合併）にも打って出る体制を整えた」（田中稔一社長）。農業化学品事業では11年にインド・東南アジアでの事業拡大に向けた製造拠点獲得を目指すなど、海外事業拡大に向けたM＆Aも検討する。

海外事業の拡大を見込んだグローバル経営体制の一環として、6月にはシンガポールにバイオマス技術などの開発を進める「三井化学シンガポールR＆Dセンター」を新設。北米・中南米での事業拡大に向けて、米州総代表という新ポストを設けて若手役員を派遣する。

コストダウンも引き続き推進する。ポリオレフィン、ウレタン事業の合理化や間接部門の人員削減で11年度に80億円のコストダウンを見込む。

## 大型船舶 燃費10％低減
### 関ペが船底防汚塗料発売

関西ペイントは大型船舶の燃費が現在市場に出回っている全従来品の平均値と比べ10・5％低減できる業界最高水準の船底防汚塗料「タカタクォンタム X－mile（エクスマイル）」を、6月中旬に発売する。塗膜物性に優れて安定した防汚性能を持つシリルメタクリレート樹脂を採用したほか、自動車用塗料で培った表面平滑化技術を応用した。価格5万円（20キログラム）で、初年度の売り上げ目標は5億円。

新製品は摩擦抵抗で生じるスピードロスが改善でき、燃料消費が大幅抑制できる。具体的には、自動車用塗料で培った同社独自の表面粗度を低減するレオロジーコントロール技術を使い、摩擦抵抗を同社従来品比で6％低減した。また、シリルメタクリレート樹脂の採用で、同社従来品より塗料のひび割れや、はく離が長期間抑制でき、海洋生物の付着も防止する。

新製品を世界展開し、2013年に世界の船底塗料市場で、現状比3ポイント増のシェア30％を狙う。

## 次世代鋼製環境車　WSA、車体設計完了
### 製造段階 $CO_2$を70％減

世界鉄鋼協会（WSA）は18日、同レベルのガソリン車に比べ骨格材の重量を35％軽くした次世代鋼製環境車の車体設計を終えたと発表した。2020年頃に商用化が見込まれる電気自動車（EV）など4車種を想定した。製造段階での二酸化炭素（$CO_2$）排出量を約70％削減できるという。WSAは日本の大手鉄鋼メーカーを含む世界17社で構成。今後は完成した設計を基に、各鉄鋼メーカーが実用化を目指す。

今回の次世代鋼製環境車の設計では、20種類以上の先端ハイテン材料を広範囲に採用し、強度がギガパスカルに達するデュアルフェーズ鋼やTRIP鋼、TWIP鋼などが含まれる。骨格接合では接合点をガソリン車の3分の1から4分の1程度に減らすことができ、材料や作業量の削減につながる。

WSAは自動車分科会で、08年から設計に取り組んできた。設計で得られた知見を鉄鋼17社が共有した上で、各社が個別に自動車メーカーに商品化を提案し、実用化を目指す。

## 4月の塩ビ生産
### 10％減10万7940トン

塩ビ工業・環境協会が18日発表した塩化ビニール樹脂の生産実績によると、4月の生産は前月比10・6％減の10万7940トンだった。国内出荷は同5・4％減の9万1522トン、輸出は同25・5％減の2万5978トンだった。

## 情報フリーウェー

◆フィルム鋼板値上げ
**三菱樹脂**　建材など向け樹脂フィルム積層鋼板「ヒシメタル」と、ポリエステル系樹脂フィルム積層鋼板「EXUM」を、6月1日出荷分から1トン当たり2万7000円以上値上げする。主要原料の鋼板の大幅な値上がりに加え、表面フィルム用の樹脂や副資材も値上がりしているため。

◆シート値上げ
**電気化学工業**　チレン系シートの価格を6月1日出荷分から値上げする。値上げ幅は1キログラム当たり25円以上。主原料のポリスチレンメーカー各社が5月から今年3回目となる値上げを表明しているため。

◆OPSシート値上げ
**電気化学工業**　食品包材向け二軸延伸ポリスチレン（OPS）シート「デンカサーモシートOPS」と、スチレン系シートを6月1日出荷分から値上げする。値上げ幅はデンカサーモシートOPSで1キログラム当たり20円以上、スチレン系シートで同25円以上。

## エレメント

### 乗り遅れずに

幸後さん

▽…クヤマは1000億円超の太陽電池用シリコン増強投資を決めた。社長の幸後和壽さんは「マレーシア2期工事の決定が遅ければ、当社製品は（市場から）お呼びがかからないところだった」と心情を明かす。

▽…マレーシアの拠点は1期工事の最中。「石橋を叩いても渡らないクヤマと言われていた」が、競合が先に大規模増産を決めており、顕在化する需要を先行獲得されてしまう可能性があった。

▽…「当社のシリコンを使うと変換効率が高くなると評価されている」。1期工事分は「すでに全量分、長期契約を結んだ」そうで、2期工事分も早期契約を目指す。

## 新役員

### JFEスチール㈱

**常務執行役員薄板セクター長兼薄板セクター部、薄板営業部、自動車鋼材営業部、名古屋支社担当**
**小林（こばやし） 俊文（としのり）氏**

【横顔】入社後19年を旧川鉄水島で過ごした後、営業担当に。これまですべての自動車会社を担当。「約束は必ず守る。守れないことは約束しない」とキッパリした姿勢で自動車営業を受け持つ。好きな言葉は「果報は寝て待て」。

【略歴】80年（昭55）京大法卒、同年川崎製鉄（現JFEスチール）入社。04年JFEスチールステンレス・特殊鋼営業部ステンレス鋼板室長、05年名古屋支社名古屋自動車鋼材営業部長、07年自動車鋼材営業部長。兵庫県出身。57年12月19日生まれ、53歳。

**常務執行役員電磁鋼板セクター副セクター長、西日本製鉄所副所長兼西日本製鉄所倉敷地区の安全衛生、環境防災、工程管理担当**
**北野（きたの） 嘉久（よしひさ）氏**

【横顔】旧川鉄千葉の製鋼部を皮切りに、一貫して製鋼畑を歩む。とりわけ連続鋳造機のスペシャリスト。「鉄鋼業は設備も人材も高齢化しており、基盤整備にまい進したい」と意欲。趣味は卓球。料理の腕前も確かだという。

【略歴】82年（昭57）東工大院理工学研究科修士修了、同年川崎製鉄（現JFEスチール）入社。04年JFEスチールスチール研究所圧延・加工プロセス研究部主任研究員、06年スチール研究所研究企画部長。広島県出身。58年2月23日生まれ、53歳。

**常務執行役員スチール研究所副所長**
**曽谷（そだに） 保博（やすひろ）氏**

【横顔】鋼管圧延プロセスの開発からスタートし、2年の米国留学や全地区での鋼材圧延開発を経験。中期技術開発計画を策定するなど研究部門を率いてきた。「研究所の財産は人。わくわくするような研究所にしたい」。学生時代は柔道部。

【略歴】82年（昭57）東工大院理工学研究科修士修了、同年NKK（現JFEスチール）入社。04年JFEスチールスチール研究所圧延・加工プロセス研究部主任研究員、06年スチール研究所研究企画部長。広島県出身。58年2月23日生まれ、53歳。

（4月1日就任）

## エコネット

エコネットが扱う製品は錆（さび）からの長期保護を目的とした防錆潤滑剤「Fluid Film（フルイドフィルム）」。1943年に米海軍と製造メーカーが共同開発し、現在も艦船や米航空宇宙局（NASA）のスペースシャトルなどに採用されている。羊毛脂ラノリンを配合し、溶剤や揮発性有機化合物（VOC）をほとんど含まず、人と環境にやさしい。塩水噴霧実験では1248時間（52日間）発錆しなかった。日本ではガントリークレーンやフォークリフトなどの港湾荷役機器からウインチや船外機まで、幅広く使用されている。

（ブース番号C2－5）

## 日本アイ・アール

日本アイ・アールは欧州最大のカップリング・ホース専門メーカーであるスウェーデンのセイン製品を出展する。中でも超高圧カプラーは最低破壊圧力が最高使用圧の2・5倍と安全性を重要視しているのが特徴。日本をはじめ世界各国のエンジンメーカーに豊富な納入実績を有している。

また韓国のオリオンテクノロジーのクランクシャフトデフレクションゲージも出展。クランクシャフトのデフレクションを遠隔測定できるため、クランクケース内の作業を容易に、加えてスピーディーにする点で注目されそうだ。

（ブース番号C2－22）

## 神埼工業

神埼工業はシップベンダーやフレームベンダー、ラム・ボルスター同時移動・回転プレスなどの造船用曲げ加工機メーカー。複雑な曲げ加工の作業能率を高める機械を提案している。同社製品は全国の造船メーカーの船体や骨組みなどの加工現場で活用されている。

加工物の特性は曲げる際の伸縮に影響する。同社はこれまでの経験から得た曲げのノウハウを基に、「高効率、省力・省人化に貢献するお客さまに適した製品」を提案している。アフターサービスも充実させて〝ベンダーのデパート〟を目指している。

今治から日本を元気に！　再び日本最大の海事都市へ！

展示会場拡大！ 200社を超える舶用機器・造船・海運企業が、最新の製品・技術・サービスを紹介します。

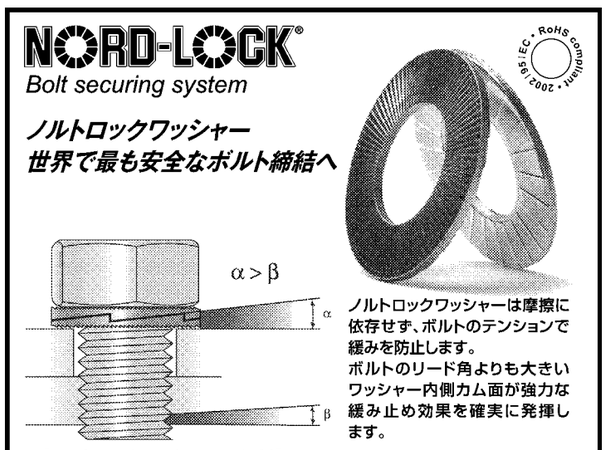
第2回目の開催となる『バリシップ2011』は、国内最大級の国際海事展『SEA JAPAN』を開催するUBM社が日本の海事産業の中心地、愛媛県今治市で開催する西日本唯一の海事トレードショーです。2009年の第1回目『今治海事展』から名称を『バリシップ』に改め、規模も前回の179社を上回る約200社が出展します。
日本企業に加え韓国、中国、シンガポール、ノルウェー等世界各国から関連企業が今治に集結します。『バリシップ』は日本が誇る最先端技術や最新機器、そしてサービスを西日本の業界関係者のみならず、全国、そして世界に向けて発信します。2年に一度の本展示会を、新たなパートナーシップ構築、既存サプライヤーとの関係強化、業界の動向を探る情報交換の場としてぜひご活用ください。

業界関係者注目の併催イベントを多数開催

本展は、国際的な海事都市として注目を集める今治市と、世界的に活躍する今治の有力企業が中心となって組織された「今治市海事都市交流委員会」の全面的なサポートを背景に開催されます。併催プログラムの「バリシップ国際会議」、「特別セミナー」、「出展社プレゼンテーション」のほか、会期3日目の21日(土)には今治港での帆船日本丸の寄港や、造船所、舶用機器工場の見学会など、市民の皆様にもご参加いただけるイベントを多数開催いたします。ご期待ください。

お問い合わせ先　BARI-SHIP運営事務局　UBMジャパン株式会社　〒101-0044 東京都千代田区鍛冶町1-8-3 神田91ビル　TEL: 03-5296-1020　FAX: 03-5296-1018　Email: info@bariship.com

NORD-LOCK®
Bolt securing system
ノルトロックワッシャー
世界で最も安全なボルト締結へ




ノルトロックワッシャーは摩擦に依存せず、ボルトのテンションで緩みを防止します。
ボルトのリード角よりも大きいワッシャー内側カム面が強力な緩み止め効果を確実に発揮します。

【ノルトロックワッシャーの特徴】
□厳しい振動においても緩まない
□高強度ボルトにも対応
□SC材・SUS材計5種類
□工場ISO9001・14001認証取得
□取付け取外しが簡単
□潤滑油がかかっても緩まない
□振動試験で効果を実証
□M3用～M130用までサイズ豊富

株式会社ノルトロックジャパン
〒550-0011　大阪市西区阿波座1－15－19 TEL.06(6535)1069㈹ FAX.06(6535)4461
info@nord-lock-jp.com　www.nord-lock-jp.com

BARI-SHIP IMABARI MARITIME FAIR バリシップ2011